



すてい~る

目次

●特集 平成24年「新年賀詞交換会」

●平成24年「新年賀詞交換会」開催	1
●各支部でも新年賀詞交換会	5
●突然おじゃま 今西清裕 伊藤忠丸紅特殊鋼(株)代表取締役社長	7
●私の愉しみ 中川有一郎 中川特殊鋼(株)上級執行役員営業部長	8
●被災地と被災企業の今 ノボル鋼鉄(株)テクニカルセンター	9
●理事会・委員会報告	10
●事務局だより・編集後記	裏表紙



社団法人全日本特殊鋼流通協会

〒103-0025 東京都中央区日本橋茅場町3丁目2番10号(鉄鋼会館)

TEL.03-3669-2633・2777 FAX.03-3669-0395

ホームページ <http://www.zentokkyo.or.jp>

E-mail info@zentokkyo.or.jp

(社)全日本特殊鋼流通協会 平成24年「新年賀詞交換会」開催



変化と改革の時代に勇氣と根氣をもってチャレンジ メーカーと流通の強い絆で国際競争に勝ち抜いていこう

全特協では平成24年1月20日(金)、東京・市ヶ谷の「グランドヒル市ヶ谷・瑠璃の間」において、平成24年の新年賀詞交換会を開催しました。出席者は例年同様の約450名。

盛況のうちに始まった賀詞交換会の冒頭で、竹内誠二会長(竹内ハガネ商行・代表取締役社長)は世界的な厳しい経済環境に懸念を示しつつも、震災復興需要の本格化や代替エネルギー化に伴う新規需要など今後の景気回復に期待を寄せ、変化と変革を意識したチャレンジ精神の重要性を力説。「元氣を出し、勇氣をもって根氣よく今年一年を乗り切ろう」とあいさつしました。

引き続き、ご来賓代表としてあいさつに立たれた塩田康一・経済産業省製造産業局鉄鋼課長は、国内産業の空洞化防止に向けた補正予算など政府の取り組みについて紹介。国内素材産業の一翼を担う、特殊鋼業界の技術力とサ

プライチェーン向上に期待を寄せられました。

その後、嶋尾正・特殊鋼倶楽部会長(大同特殊鋼・代表取締役社長)のご発声で乾杯。今後もメーカーと流通の強い絆を一層高めながら、厳しい国際競争に勝ち抜いていこうという意気込みにあふれた懇談が進められ、湊義明・東京支部長(野村鋼機・代表取締役)の三本締めで盛会のうちに散会となりました。



全特協会長 年頭のあいさつ

(社)全日本特殊鋼流通協会 会長 竹内誠二

選択と集中でより良く充実した事業運営を “勇気と根気”をもって道を切り開いていこう



新年あけましておめでとうございます。年頭にあたり一言ごあいさつを申し上げます。

昨年はリーマンショックから立ち直りかけた矢先に、3月11日の東日本大震災、福島原発の重大事故となり、サプライチェーンの寸断で一時は日本の鉄工業の生産が大きく落ち込みました。その落ち込んだ分を年の後半には盛り返しましたが、一昨年の粗鋼生産は1億1000万トンであったところ、昨年は

1億500万トンを割り込みそうです。特殊鋼の生産は一昨年は2050万トン、昨年は2040万トンと微減になりそうで、自動車の生産も2010年の963万台に比べて2011年は11月までで755万台ですから、予想としては840万台に届くか届かないか、といったところです。

今年には欧州の金融危機、アメリカではサブプライムローンの後遺症や富の格差の問題、発展途上国での経済成長の減速、アラブ諸国の政変と懸念されますが、なんといっても世界のGDPの大半を占める先進主要国でトップを選ぶ年です。それに4年に1度のオリンピックの年です。歴史的な円高の逆風もありますが、本格化するであろう震災の復興需要、買い控えや節約疲れからの個人消費の回復、代替エネルギーに伴う新規需要、消費税アップ前の駆け込み需要などでの景気回復を期待しております。景況感を分かりやすく天気にととえて表わすならば昨年は雨、今年は曇り後時折薄日が差してくればいいが、と念じております。

当協会としては、一般社団法人化へ

の移行を今年の6月4日の総会において、平成24年度予算と事業計画と共に承認をいただき、速やかに内閣府に申請手続きをします。順調にいけば、平成25年4月1日から一般社団法人全日本特殊鋼流通協会としてスタートしたいと考えております。会員数も減少してきており、厳しい協会運営になりますが、選択と集中でより良い充実した事業運営を心がけていきます。

今年も既にいろいろな賀詞交換会に出席させていただきました。今年には変化とか変革の時代で、それに対して挑戦とか実行するという言葉が印象的でした。

新年早々に、国際サッカー連盟から女子チーム監督部門での年間最優秀監督に佐々木則夫監督が選ばれました。佐々木監督は「成功の反対は失敗ではない」「成功の反対は挑戦しないことだ」と言っていました。今年には是非とも勇気をもってチャレンジしたいと思えます。また、なでしこジャパンの澤穂希選手も女子の最優秀選手賞を受賞しました。澤選手は「勇気と根気と負

けない心で戦いました」と試合後に語っていました。今年、なでしこジャパンにあやかかって「元気を出して、勇気をもって根気よく」今年一年を乗り切っていきましょう。必ずや明るい道が開けて参ります。

皆様のご活躍を祈念申し上げます。あいさつとさせていただきます。



(社)全日本特殊鋼流通協会 新年賀詞交換会

平成24年1月20日(金) グランドヒル市ヶ谷

ご来賓祝辞

経済産業省製造産業局 鉄鋼課長 塩田康一様

円高の問題など世界経済も不透明な中、 サプライチェーン、技術力など特殊鋼産業の底力に期待



今年はどういう年になるかということでは、やはり円高の問題が一番あげられます。さらには、欧州経済やイラン問題など不透明な状況の中、難しい経営判断を迫られるかと思えます。

昨年来より、政府としては円高対策としてさまざまなことをやってきました。また、国内産業の空洞化を防止するという観点で、補正予算で5000億円の国内企業立地補助金というものを用意しました。さらには、自動車産業の発展が日本経済において非常に重要だという観点から、重量税の一部負担軽減やエコカー補助金の用意など、日本経済再生のために取り組んでいます。

日本自動車工業会の発表では2012年の国内新車販売台数は501万台ということで、昨年より増えるということです。そのうち、約80万台が補助金や減

税の効果として見込んでいただいております。こうした施策が皆様方の需要回復につながればと考えております。

皆様方の特殊鋼の世界は、素材産業として自動車をはじめとする基幹産業を支えています。製造、加工、販売、流通にいたるまでのサプライチェーンはもちろん、技術力もふくめて日本経済というものはまだまだ底力をもっていると考えています。皆様方には、今後とも是非がんばっていただきたいと思うとともに、私どもとしてもこれまでの対策に加えて引き続き、日本経済が発展するように努力してまいります。



乾杯ご発声

(社)特殊鋼倶楽部 会長 嶋尾正 様

メーカー、流通ともに汗を流し、 価値創造素材である特殊鋼を盛り上げていこう



今年の特殊鋼業界にとっては、超円高と電力供給の問題が経営の大きなリスクになるのではないかと考えています。超円高については、産業の空洞化により拍車がかかるのではないかと

う懸念であり、電力供給については、われわれ電炉業にとっては国際競争の観点から致命傷になりかねないという危機感をもっています。

そうした非常に厳しい経営環境の中であえて一言申し上げますと、特殊鋼という材料はそんなに捨てたものではないと思います。非常に魅力に満ちた素材であり、特にお客様の価値創造にとってなくてはならない材料であると強く感じ、信じています。

本日、ここにお集まりの皆様にお願ひしたいのは、これまで長年にわたって築き上げてこられた流通ネットワー

クの力を、今こそ發揮していただきたいということです。特殊鋼メーカーも、この厳しい国際競争に勝ち抜くために、プロセスの改革や商品開発をしっかりと続けて参ります。メーカーと流通がお互いに汗を流して、これからのお客様の価値づくりに何が必要か、ということをお客様に届けていただきたいと思います。強く思っております。

それでは、メーカーと流通の強い絆をこれからも一層高め、今年一年元氣よく力強く進んでいくことを誓い合ひまして、乾杯のご唱和をお願いいたします。

中締めあいさつ

(社)全日本特殊鋼流通協会 東京支部長 湊義明

課題を着実に実行し、苦難の時代を乗り越え 業界全体で拳をあげ、がんばっていこう



本日は、ご来賓および会員、賛助会員の450名を超える多くの皆様にご参集いただきまして、まことにありがとうございました。

年初より皆様のお話をうかがっておりますと、昨年日本経済とわれわれを取り巻く環境は厳しく、苦難の時代だったと思います。今年は、その苦難を少しずつでも克服して、課題を着実に実行していくということが肝要では

ないかと思ひます。今年一年も厳しい年になると思ひますが、皆様、業界全体で拳をあげてがんばってまいりましょう。

今年辰年ということで、株の相場格言では辰巳天井といわれます。昇龍のごとく、とはいかないまでも、そんな気持ちで最後は三本で締めさせていただきますので、ご唱和の方をよろしくお願ひいたします。



各支部でも新年賀詞交換会

東京支部

開催日時：平成24年1月20日(金)
開催場所：グランドヒル市ヶ谷
(社)全日本特殊鋼流通協会との合同開催

大阪支部

開催日時：平成24年1月5日(木)
開催場所：リーガロイヤルホテル
出席者：約750名
[大阪ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部大阪支部との3団体共催]

冒頭で、今井隆・大阪ステンレス流通協会理事長(大和特殊鋼・代表取締役社長)が「本年の特殊鋼業界の動向は、自動車および建設機械の生産見通しをみる限りでは、比較的堅調に推移するのではないかと思います。東北、関東の一部から建材関連の需要が立ち上がってきているようです。本格的な震災復興が始まりますと昨年を上回る消費が期待できるのではないのでしょうか」と需要見通しを述べ、あいさつ。

乾杯のご発声は、特殊鋼倶楽部大阪支部の栄山博之氏(山陽特殊製鋼・取締役大阪支店長)。栄山氏は「円高、国内空洞化、欧州金融危機など厳しい見方もある一方、世界的には中国を中心とした新興国の回復により、下期には緩やかに回復するのではという予想もあります。心構えとして情報変化へのアンテナを高くして、迅速な対応が必要です。危機をチャンスととらえ、乗り切っていきましょう」とあいさつして乾杯しました。



▲君が代斉唱



▲あいさつする今井氏

名古屋支部

開催日時：平成24年1月6日(金)
開催場所：名古屋観光ホテル
出席者：421名
[名古屋ステンレス流通協会、特殊鋼倶楽部名古屋支部との3団体共催]

冒頭、堀場昌治・名古屋ステンレス流通協会理事長(リントツ・代表取締役社長)は、価格競争や輸入材の侵食によるステンレス業界の現状を例にひき危機感を表明。その上で、「本日も出席の皆様もできるだけ国産のものを買いましょう。日本の発展のために日本のものを使っていく。そうするとコストも安くなります。そして、新入社員を採らなければ若い人が成長しません。業界のため日本のためこの一年がんばりましょう」とあいさつされました。

乾杯の発声に立った熊谷多津旺・名古屋支部長(クマガイ特殊鋼・代表取締役)は、「昨年は中日ドラゴンズ、“竜”がセ・リーグ連覇を果たしました。落合元監督は、選手とのコミュニケーションを大切にたくさんとったそうです。これを、会社や業界に置きかえ、コミュニケーションをとることでいろいろと起こるであろう今年を乗り切りたいと思います」とあいさつ。和気あいあいとした雰囲気の中進んだ懇談会は、山中敏幸・特殊鋼倶楽部名古屋支部長(愛知製鋼・参与)の中締めで散会となりました。



▲中締めは三本締め



▲堀場氏による冒頭あいさつ

東北支部

開催日時：平成24年1月19日(木)
開催場所：仙台国際ホテル
出席者：62名

冒頭で横山大支部長(横山鋼業・代表取締役)は、東日本大震災と福島第一原発事故による被災者の方々へお見舞いの言葉を述べ、全特協の会員から寄せられた見舞金について、「復興のための大きな力と勇気になりました」と感謝の意を表明。その上で、「今年は「復興元年」として東北の産業復興が本格的にスタートします。支部として大切なのは人・企業・地域との関係。協会の枠組みの中で、今まで以上に会員同志のコミュニケーションを生かし、皆様との繋がりを復興の力としたいと思います。さらなるご支援、ご協力をお願い申し上げます」とあいさつ。ご来賓の佐々木正二氏(大同特殊鋼/ステンレス・工具鋼事業部室長)と妹尾信夫氏(日立金属・工具鋼統括部部長)からご祝辞をいただいた後、小林繁美氏(アマダマシンツール・東北ブロック長)のご発声で乾杯。森高臣副支部長(関東鋼鉄・代表取締役)の中締めまで、和やかな雰囲気懇談が行われました。



▲あいさつする横山支部長



北関東支部

開催日時：平成24年2月12日(日)
開催場所：伊香保温泉『ホテル小暮』
出席者：17名

冒頭で宮内保支部長(小山鋼材・代表取締役)が「昨年は東日本大震災を始めタイの大洪水、記録的な円高など我々特殊鋼流通業界を取り巻く環境はほんとうに厳しいものがありました。今年は震災の復興や水害からの復旧も期待され、日本の製造業が復活再生して少しでも良い年になることを祈念しています。また、円高についてもある雑誌には、『日本の製造業は今までずっと円高基調であり、その都度経営努力を重ね克服してきた。空洞化を心配する声は以前からあるが、頑張り続けて今日がある。様々な形態に変化して行くこともあるが、必ず生き残って行ける』とありました。今年一年厳しい状況は変わりませんが、希望を持って乗り切っていきましょう」と力強くあいさつ。

扇原孝志氏(日立金属・工具鋼統括部課長)の市況説明の後、由谷直彦氏(日本高周波鋼業・担当課長)のご発声で乾杯。和やかな雰囲気では進み、鈴木至典副支部長(鈴木機械・代表取締役)の中締めで散会した。



▲あいさつする宮内支部長



静岡支部

開催日時：平成24年2月21日(火)
開催場所：中島屋グランドホテル
出席者：17名

橋本和夫支部運営委員(石原鋼鉄)の司会で開会し、原博康支部長(東泉鋼機・取締役社長)が新年のあいさつをし、来年度の全特協が一般社団法人に移行することの協力と、支部活動として特殊鋼販売技士1級の講座を予定していることを述べた。来賓の泉淳仁氏(大同特殊鋼・工具鋼営業部名古屋営業室長)の音頭で乾杯し、なごやかに歓談の宴が催され、三上忠明副支部長(ノボル鋼鉄)の中締めで散会した。



▲あいさつする原支部長



九州支部

開催日時：平成24年1月6日(金)
開催場所：ANAクラウンプラザホテル福岡
出席者：204名
[九州ステンレス協会との共催]

岡田成生(ケイ・エス・スチール・代表取締役)支部長による「昨年の震災、台風被害、また円高の嵐の中今年も厳しい年が予想されますが、会員各社の協力のもと共存共栄でこの難局を乗り越えて行きましょう」とのあいさつの後、松ヶ下昭人氏(山陽特殊製鋼・九州営業所所長)による乾杯で開宴。高岡周一・九州ステンレス流通協会副理事長によるユーモラスな「登り竜三本締め」の中締めで散会となりました。



▲あいさつする岡田支部長



突然おじゃま



伊藤忠丸紅特殊鋼(株) 代表取締役社長／今西清裕

伊藤忠丸紅特殊鋼は、構造用鋼と工具鋼をメインとした特殊鋼の加工販売に加え、ステンレスコイルセンター事業と線材およびその加工品販売と、3つの事業エリアを柱とする。昨年4月に3代目の社長として就任。全特協では内外交流事業の担当としてご尽力いただいている今西清裕社長に、現在の景況感や業界動向についてうかがってみた。

震災後の不透明な時代のキーワードは「変化への取り組み」と「社内外の連携強化」

■海外を皮切りに幅広い業務経験を持つ、辰年生まれの鉄鋼人

丸紅入社以来、社会人として3分の1を海外で過ごしてきた。

1952年4月、東京都生まれ。1976年に東京外語大学を卒業し、丸紅に入社。鉄鋼部の輸出業務セクションに配属された。

最初の海外赴任は1983年12月から。1992年4月までの足かけ8年半、米国・ロサンゼルスに駐在した。

帰国してからは輸出業務のほか企画室なども担当。2000年には鋼板貿易部副部長に。いずれにしても、鋼材一筋に経験を積んできた鉄鋼人である。

2度目の海外赴任の転機となったのが、2001年10月の伊藤忠丸紅鉄鋼の発足。それに伴い、バンコク支店長となり2004年3月まで現地に駐在した。

2004年4月に本社に戻り、2007年4月から執行役員鋼材第三本部長。このころより、これまで長かった鋼板貿易部門の経験に加え、特殊鋼や線材、ステンレスと対応業界を多岐にわたって経験し、鉄鋼人としてのキャリアにさらなる幅を広げた。そうした経験を活かして、09年には国内有数の販売力を持つステンレスコイルセンターである阪和工材に転じる。専務、副社長と経て、昨年4月に現職の伊藤忠丸紅特殊鋼社長に就任した。

就任早々は東日本大震災発生直後ということもあり、被災に見舞われた自社設備の復旧や安全確認に追われた面

も強かったが、辰年生まれの鉄鋼人として2012年にかけての意気込みは大きい。

キーワードとして挙げるのは「変化に取り組み経営体質を向上」「社内外での連携強化」である。

■業界の独自性を活かし、グループ内、取引先との連携強化を

会社全体の戦略展望としては、歴史的な円高が進行・固定化していく中で、海外需要をいかに捕捉していくか、というテーマがある。だが、「特殊鋼は内需主導ですから」という別の視点も併せ持っている。

「日本の特殊鋼業界は、おもしろいことに会社の規模が違って、1社1社、1品1品ごとといってもいいほどに違いがあり、手作りに近い形での差別化と、それに伴う競争価値を持っているのが特徴」と力説する。その考えに立って、「供給から流通を含めた連携の強化を図っていくことが今後はますます大切になります。特に、専門性の高いところはより積極的な連携を進めるべきでしょう。たとえば、当社の流通機能を利用してもらってもいいし、その逆があってもいいでしょう。Win-Winの関係が築きやすい業界だと思います」という抱負を持つ。

そうした思いからも、グループ企業や取引先との連携強化を非常に強く求める気持ちがある。「これまでの延長線上にこだわることなく、さまざまな

変化を前提に考えていかなければいけない時代ではないでしょうか。特に、震災とそれに伴う事業環境の変化に対して、業界全体が、今後の不透明な時代への対応力を試されている」という思いを強く持っている。

■体育会で鍛えた統率力と体力で会社と業界を牽引する

大学時代は体育会サッカー部の主将としてメンバーの取りまとめにあたってきた。これまでも長年、当時のメンバーとは定期的な集いがあり、「若いころに苦楽を共にした仲間は、そんな絆の強さがあるって特別なものですね」と笑顔をほころばせる。リーダーシップも、そうした経験を基に養われてきたのであろう。

現在、サッカーはさすがにプレーしないが、その代わり伊藤忠丸紅鉄鋼のゴルフ相互会に所属するなどして、ゴルフを通じて心身の鍛錬を図っている。「還暦を迎えますが気力、体力共に十分です」と自信をみせる。

全特協では東京支部の運営委員、内外交流部会副会長を務める。

「協会の事業を通して業界情報の共有化を図るなど、連携を前提にした信用力強化の場であることは非常に意義深い」と、その活動を高く評価する。

プライベートの趣味は家族旅行。国内外を問わずに、年2回は出かけるように心がけているという。

私の愉しみ

中川特殊鋼(株) 上級執行役員営業部長／中川有一郎



趣味も遊びも一期一会の気持ちで 自分のものにしていければ

■登山、武道と、体を動かすことが大好き だった中高時代

1949年10月、神奈川県藤沢市生まれだが、父・小弥太氏の大阪支店開設のための赴任の関係で、幼稚園から高校2年までを宝塚市で過ごした。

「若いころから体を動かすのが好きでした」と言う中川氏。甲南中高時代は、ワンダーフォーゲル部に所属。毎週、土日はキスリング型のリュックサックを背負って、六甲山地を歩き回る数年を送った。

高校2年の後半に、父親の東京転勤で成蹊高校に編入。ここでは、近くに山もないことから柔道部に入門した。

「ここでは吉田先生という非常な人格者から指導を賜り、高校3年で講道館での初段に受かったのですが、とにかく稽古が厳しかった」と振り返る。そのわけが、成蹊大柔道部と一緒に稽古をすること。

「考えてもみてください。身体も技もレベルが高校生と大学生とは全然違う。上達のためにはいいのですが、大男にボンボン投げられていたら体がもちません」

あまりの練習の過酷さに、伯父さんとか伯母さんが危篤！と、嘘をついて稽古を休み、そのうちには出演者(?)も尽きてしまった、と嘆く同級生もいたほどだったという。そんな厳しい練習の中、はたして中川氏も腰を痛めてしまう。

「腰椎の椎間板が伸びてしまっている状態だったんですね。そのとき診察してもらった докторが格闘技嫌いで、『そんな野蛮なものはやめなさい』となって」。結局、柔道はここで断念することになってしまった。

まもなく成蹊大に進学となり、父親も愛好家であったことから、その勧めもあり、ゴルフ部へと入部した。

■ゴルフをメインに、スキューバ、釣り幅広い“愉しみ”

「成蹊大ゴルフ部は、中高のクラブからやっているメンバーが多く、みな上手なんですよ。だから、私などはレギュラーにはなれなくて、たまたま自宅のすぐ近くに住んでいた先輩からの引継ぎ要請もあって、マネージャーになったんです」

マネージャーとなった中川氏が終始苦勞をしたのは部費の問題だった。

「やはり大学生の部活ですから、慢性的にお金が足りないんですよ。ですから、近郊の河川敷コースに出向いて女子部員にキャディーのアルバイトをさせてもらえないかと交渉したりして。お金のことにアタマを悩ませて、そのころから営業みたいな仕事をしていたわけです」と当時を振り返り、笑った。

ゴルフに関しては19歳のときから始めて現在でも続けているので、かれこれ40数年の趣味になる。

「ただし、柔道で痛めた腰がありますから、フルスイングは控えめに労わりながらやっています」とのことだ。

趣味に関することでは、人の勧めにも乗ってみる柔軟性と好奇心の強さがあるのも特徴だ。50歳をすぎたからスキューバダイビングを始めたのも、その好例だろう。

「当時、会社に在籍していた女子社員が『あの感動を知らずして生まれてきた価値はない』というくらい熱心に勧めてきたので、じゃあやってみるかとなって」

ちょうど、以前から通っているフィットネスクラブで講習を行っていたこともあり、ライセンスを取得してダイビングを始めるようになった。

「伊東、川奈、稲取という伊豆を中心に、逗子や真鶴などにも潜りにいきます。伊豆旅行の際には、1日はゴルフで1日はスキューバ、1日は磯釣りにと、毎日違う遊びをするときもありま

す」と、なんとも多趣味でうらやましい。

■悪天候の時は博物館へと

文化、芸術にも関心が

そんなアクティブな中川氏だが、近年では文化・芸術的な嗜好に時間を費やすことが多くなっているという。

「母親が芝居や映画が好きで、子供のころによく連れて行ってもらっていました。そのDNAもあるんでしょうか、近年では歌舞伎を幕見で観るといのが楽しみになっています」と言う。現在、改装中の歌舞伎座が新装なって、幕見席がどうなるかが一番気がかりだそう。

そのほか映画も、「シネコンが出来たのがとても有り難い。最近は寄り合いで一杯やった後のカラオケは遠慮してレイトショーを観に行くことが多い」とも。

また、上野の国立博物館の年間パスポートも持っている。「重宝しています。常設展はもとより企画展も切符売場に並ばなくてもずっと入ることができます。国宝級の名品がいつでもすぐに観れるというのは大変贅沢なことです」。そのため、天気の良い週末はOut doorは諦めて上野などに向かうことにしているという。

「人との出会い、一期一会。そんなことが趣味の世界にもありそうですね。いろいろやってみる中で、愉しめたも自分なりに選択していけばいいんじゃないですか」と中川氏は結んでくれた。



会社のゴルフ同好会での一コマ「この会ではいつも1.5Fする」とはご本人の弁



東日本大震災・復興支援企画

被災地と被災企業の今

東日本大震災では多くの会員企業が被災され、1年が経過した現在でも復興の途上にあります。今号でも、前号に引き続いて被災企業の現況をレポート。業界の同士として、今後も引き続き支援の気運を持ち続けたいと思います。



田中照幸センター長

第2回 ノボル鋼鉄(株) テクニカルセンター(福島県南相馬市原町区)

緊急連絡網の整備で安否確認は迅速に

震災発生時の初動は、工場設備、通電状況、ガス・水道を確認し、災害伝言ダイヤルで状況報告をしました。社員全員の無事はすみやかに確認できましたが、その後、家族の安否確認等で帰宅させた為、直後からの津波と原発事故の発生で状況は一変。津波に巻き込まれた社員もあり、災害の恐怖を思い知りました。数日して携帯メールの通信ができるようになってから、改めて社員全員の無事が確認できましたが、ご家族が津波で亡くられたり、家屋流失という被害を受けた社員がいました。安否確認については、以前から全社で整備していた緊急連絡網と災害伝言ダイヤルの活用が有効に機能したと思っています。

いまだ影を落とす原発事故の影響

一方、原発事故の影響についてはいまだに大きな影を落としています。当事業所は原発から30km圏内にあるため、4月22日までは屋内退避の指示が、9月30日までは緊急時避難区域として指定されていました。屋内退避の時期は生活、修繕物資、人員等、すべてにおいて混乱をきたしていました。

現在では、30Km圏内に仮設住宅や仮設工場の建設、一般住宅の除染作業も2ヶ年計画で開始いたしました。小さい子供を持つ家族は県外避難している状況です。テクニカルセンターの

社員も全社で調整して頂き、現在も多くは拠点を移した生活をしています。

甚大な被害を受けた設備は一部回復へ

工場についての被害は、内壁の落下や設備のジャッキからの脱落などがありますが、もっとも大きく深刻なのは、工場の基礎が20cm以上沈下してしまったことです。

これら、工場と設備の復旧に関しては、順次修復するよう進めているところです。第2工場については沈下した建物をジャッキアップで元に戻す修繕を昨年8月に行いました。設備のレベル出しについては、生産対応可能な状態まで設備メーカーと自社とで対応し、一部設備の試運転を兼ねて11月に運転を再開しています。

ただし、第1工場については基礎が特殊な構造のため未修繕のままで、この4月には復旧工事の着工ができる見込みです。

職場の有無が精神的な支えになる

3月14日に入社したのもつかの間、その夜に原発の避難指示が出され、パニック状態であてもなく避難、震災で家が無事だった人までも遠くへ避難しなければなりません。この時から、社員の所在も県内外にバラバラとな

り、私自身、底冷えのする体育館で携帯電話を握りしめ、新聞の避難所欄をみながら連絡のつかない人を数日にわたって探しました。順次見つかったときの安堵感はいまでも忘れられません。

この間、本社をはじめ各営業拠点からの支援、そして全特協ならびにメーカー、商社をはじめ取引先各位からの支援物資やお見舞い、励ましのお言葉に大きく勇気づけられ震災直後の局面を乗り切ってこられたと感謝しております。

また、現在でも自宅に戻れない社員もおりますが、働く場所の有無は精神的に大きな支えとなっています。現在、当事業所では工場の再稼働に向けて準備を進めているところです。必ず、皆様のご期待に沿えるようがんばってまいりますので、いましばらくお待ちください。よろしくお願い申し上げます。



ジャッキアップとともに基礎部分も鉄筋から打ち直し、沈下から復旧中のテクニカルセンター・第2工場

理事会・委員会報告

第62回運営委員会 及び第5回新公益法人移行検討委員会

日時：平成24年1月20日 14:45～16:45 於：グランドヒル市ヶ谷3F「翡翠の間」
内容：1. 平成24年度事業計画書(案)及び同年度収支予算書(案)の件
2. 平成24年度収支予算書(案)の収支改善対策(案)の件
3. 公益目的支出計画(案)の件
4. 統計・アンケート調査結果のホームページへの掲載の件
5. 委員選考委員会の設置及びその委員の件
6. 第64回運営委員会及び第40回理事会の開催の件
7. 平成25年賀詞交換会の開催の件

第45回総務委員会

日時：平成24年1月16日 12:00～14:30 於：鉄鋼会館 特殊鋼倶楽部会議室
内容：1. 平成24年度事業計画書(案)及び同年度収支予算書(案)の件
2. 平成24年度収支予算書(案)の収支改善対策(案)の件
3. 公益目的支出計画(案)の件
4. 統計・アンケート調査結果のホームページへの掲載の件
5. 委員選考委員会の設置及びその委員の件
6. 第64回運営委員会及び第40回理事会の開催の件
7. 平成25年賀詞交換会の開催の件

第40回人材育成委員会

日時：平成23年12月22日 16:00～18:30 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 平成23年度特殊鋼販売技士2級検定試験結果及び販売加工技士基礎編研修講座実績
2. 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
3. 特殊鋼販売技士、販売加工技士の制度改革について

人材育成委員会/特殊鋼販売技士検定試験委員会 第8回指導要領作成ワーキンググループ

日時：平成24年1月12日 14:00～17:00 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 3級研修講座の「指導要領」の講師意見集約について
2. 2級研修講座の「指導要領」作成について
3. 研修講座講師のメーカーバランスの是正、メーカーへの講師要請方法の検討について

人材育成委員会/特殊鋼販売加工技士検定試験委員会 「実務編」問題選定会議

日時：平成24年2月15日 15:00～17:00 於：鉄鋼会館
内容：1. 特殊鋼販売加工技士「実務編」検定試験の試験問題概要について
2. 特殊鋼販売加工技士研修制度の改革について

第45回調査研究委員会

日時：平成23年11月29日 14:00～17:00 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 第59回(7-9月)景況アンケート調査報告
2. 第60回(10-12月)景況アンケートの設問について
3. 第10回経営環境に関する設問について
4. 景況アンケートなど調査報告のHP掲載について
5. 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
6. 特殊鋼流通環境の変化に対する特別調査について

第21回経営効率化委員会

日時：平成24年2月16日 13:00～15:00 於：ネットカンファレンス大阪
内容：1. 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)について
2. 玉掛け技能講習会等について

第28回広報委員会

日時：平成24年2月7日 15:00～17:00 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 広報誌「すていーる46号」の記事配置等について
2. 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
3. 「はがねの日」の記念事業について

第34回内外交流委員会

日時：平成23年12月13日 15:00～17:00 於：名古屋・舞鶴館
内容：1. 平成23年度事業実績及び収支見込について
2. 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
3. 平成24年度の海外研修先について

第35回内外交流委員会

日時：平成24年2月22日 12:00～14:00 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 平成23年度事業実績及び収支見込について
2. 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)について
3. 平成24年度の研修先について

第32回青年部会正副部会長会議

日時：平成24年2月2日 15:00～17:00 於：名古屋・安保ホール
内容：1. 第20回運営委員会の内容について
2. 平成24年度事業計画(案)及び予算(案)の考え方について
3. はがねの日PR小物「携帯クリーナー」作成について

事務局だより

①「法律無料相談窓口」(何でも相談窓口)を気楽にご利用下さい(経営効率化委員会)

当協会の理事である飯田理事の飯田法律事務所と法律顧問契約を結び、会員の皆様を対象に「法律無料相談窓口」を開設しております。皆様の身近な諸問題についても無料で受けられます。

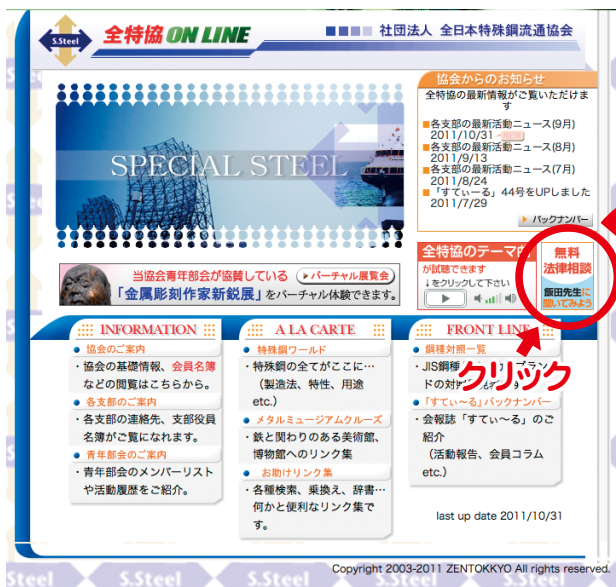
一般社員の皆様のプライベートな問題も相談可能です。

・飯田法律事務所：Tel 03-3666-3838(窓口：高橋氏) ・電話でのご相談は無料です。

①全特協「法律無料相談窓口」を利用したい旨をお伝え下さい。②「全特協の所属支部と会社名」をお伝え下さい。

③相談内容を簡単にまとめてお伝え下さい。④弁護士の先生と直接具体的な相談を始めてください。

・現在お住まいの地区の弁護士事務所の紹介も可能。 ・相談内容は守秘義務があり、いずれにも報告されません。



引っ越してきたお隣さん、工場の音がうるさいので防音設備を付けたらいい、その費用を請求してきた！果たして請求しなければいけないのか…?

自転車で当てられ怪我をした！治療費の他に通院の交通費や着ていた服のクリーニング代ももらってもいいの？

隣の家の音がうちの庭まで伸びてきた！勝手に掘って食べたらいけないかしら？

突然、家族が亡くなった！遺言が残っていないので、遺産をどう分けたいか分からない。骨肉の争いは絶対に避けたいけど、うまく分ける方法は？

会社によくばな売込みが来て困る！トラブルを避けて断るにはどうしたいものか？

**身近なお困りごと、会社のトラブル、お気軽にお電話ください。
全特協・会員会社の社員の方も無料です。
秘密は守られます。**

そうだ！飯田先生に聞いてみよう

電話 03-3666-3838 (飯田法律事務所)

相談の流れ
(電話で)

①「全特協の無料相談窓口を利用したい」と言ってください。

②「会社名、全特協の支部名」を言ってください。

③あとは、担当の弁護士さんとお話してください。

④無事解決!!

右に掲載のチラシのPDFデータをホームページからダウンロードできます。

会員各社の社員の方も無料でご利用できますので、出力して社内で配布する等、お気軽にご利用ください。

<http://www.zentokkyo.or.jp/pdf/legal.pdf>

② JISハンドブック及び定期刊行物購入斡旋のお知らせ

日本規格協会発行の「JISハンドブック」及び定期刊行物の購入斡旋を継続しております。是非ご利用下さい。お問い合わせは、事務局までお電話下さい。(Tel：03-3669-5803)

編集後記

春の訪れを感じさせる季節になりました。この冬は記録的な大雪に見舞われました。当分の間、自然災害と無縁な穏やかな日々を過ごしたいものです。

さて、今号は各支部で開催された新年賀詞交換会の様子を主体に記事を掲載しています。昨年と比べて笑顔が自然に映るのは、少しずつ景気が回復しているということであ

しょうか。

また、前号に引き続き、被災企業の現況をレポートしています。復興の途上にある会員会社さまの一日でも早い復興をお祈りします。

広報委員会委員長・広報誌発行責任者／福原実晴